



食育の視点から子どもの根っこを育む～田中先生～

田中先生のお話は、まさにフルコースディナー。メニュー表を配られた瞬間から、聴き手である私たちの心はすっかりわしづかみにされ、気づけば全員、田中先生が腕を振るう”ごちそう”に舌鼓を打っていました。

しかし、ただ美味しいだけではありません。「1年生から6年生への成長を担っている」という栄養教諭というお仕事に、田中先生がどれほどの責任感を持って向き合い、日々実践されているか—そのお姿に触れるたび、「自分はどうか？」とハッとさせられっぱなしでした。

田中先生は、授業についても常にこだわりを持ち、時間を見つけては他の先生方の授業参観に”食べ歩き”され、食欲に学ばれています。伝えたいこと、教えたいことを、相手にわかりやすいよう見事に調理して届けるそのワザの数々にも、思わず舌を巻きっぱなしでした。



本を活用した授業実践 ～大屋先生～



大屋先生のお話を聞いているあいだ、まるで極上の図書館にすっぽりと包まれているような、あたたかく安心する心地がしました。

本を読む、本に浸る—そのためには、心が落ち着き、安心できる「読書日和」な空気が欠かせません。そんな空気を、大屋先生は学級においても、日々こつこつと製本されているからこそ、ご紹介くださった子どもたちの姿という、何ものにも代えがたい「名場面」が生まれているのだと思いました。

「本を読んでクイズをつくろう」の活動も、活動そのものが目的なのではありません。「あの子が輝く」「あの子のらしさを照らす」、そんな一人ひとりの物語に光を当てるための道具として使われていることが、本当にすごいですよね。

やってみよう ビブリアバトル

